［課程―2］

審査の結果の要旨

氏名　　太箸　俊宏

本研究は通所リハビリテーションを利用している生活期脳血管疾患患者の排泄動作能力の維持・改善に寄与するリハビリテーションプログラム（通所リハビリテーション頻度と提供サービス、リハビリテーション実施内容等）について、施設要因および個人要因を考慮した上で男女別に探索的な解析を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. ベースライン調査時と比較して、フォローアップ調査時（2 か月後）に排泄動作能力が維持・改善していた者は、男性 262 人のうち 236 人、女性 222 人のうち 208 人であった。
2. 排泄動作能力の維持・改善と施設要因との 2 変量でのロジスティック回帰分析から、女性において通所リハビリテーションを提供している施設が主治医と連携していることは、排泄動作能力の維持・改善と有意に関連していた。
3. 排泄動作能力の維持・改善と個人要因との 2 変量でのロジスティック回帰分析から、男性において通所リハビリテーションの目的にレスパイトが含まれていることは、排泄動作能力の悪化と有意に関連していた。
4. 男性を対象とし、排泄動作能力の維持・改善を目的変数、リハビリテーションプログラムを説明変数、施設要因および個人要因を調整変数とした多重ロジスティック回帰分析において、応用歩行練習を実施することが排泄動作能力の維持・改善と有意に関連していた。
5. 女性を対象とし、排泄動作能力の維持・改善を目的変数、リハビリテーションプログラムを説明変数、施設要因および個人要因を調整変数とした多重ロジスティック回帰分析において、短期入所を併用することが排泄動作能力の悪化と有意に関連していた。

以上、本論文は通所リハビリテーションを利用している生活期脳血管疾患患者の排泄動作能力の維持・改善に寄与するリハビリテーションプログラムの解析から、男性は応用歩行練習の実施が排泄動作能力の維持・改善と有意に関連しており、女性は短期入所の併用が排泄動作能力の悪化と有意に関連していることを明らかにした。本研究は、これまで未知に等しかった生活期脳血管疾患患者の排泄動作能力の維持・改善に影響を与える要因の解明に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。